女　建　第　２２７　号
平成２０年１０月１７日

国土交通省道路局長　殿

女川町長　安　住　宣　孝

今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成２０年９月１９日付け国道企第３７号で依頼のあったこのことについては、別紙のとおりです。

担当：建設課　鈴木
ＴＥＬ０２２５－５４－３１３１
ＦＡＸ０２２５－５４－３９５９

今後の道路行政についての意見・提案

様式　①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮城県　女川町

地方においては、公共交通機関が整備されるどころか廃止されている現状にあり、日常生活を営むうえで道路は非常に大切なものである。しかしながら、道路整備については、通行量や利用住民の人数等を考慮され、都市圏に比較し地方の道路整備は遅れているのが現状である。地方は、中央に比べ一世帯当たりの車両保有台数が多く、車が走れる道路がないと生活さえもできないという厳しい現実を認識していただきたい。

また、地方の道路は、簡易的なつくりのためか、豪雨等により被災し通行止めになることがしばしば見受けられる。近い将来、発生が予測されている宮城県沖地震についても、多大な災害が想定されており、災害があったから改良する、いわゆる事後処理ではなく、危険な箇所については事前に改良するなど、減災に努めることも肝心である。さらに、地方の道路整備についての要望を何十年と続けても、一向に埒が明かないのは非常に残念なことである。

本町には二つの有人離島があるが、そのうちの一つ「出島（いずしま）」は本土から２００ｍしか離れておらず、架橋の問題が３０年余にわたり論議されている。現在は、島内道路（県道）の整備を着々と進めているが、架橋についての計画は未だ示されていない。架橋が当分先になるのであれば、整備までの間の対策として、離島航路の船舶に対しての補助制度を確立するとか、急病人が出た場合の救急船あるいは救急ヘリの対策を講じるとか、国土交通省として架橋と並行した形での対策及び計画をきっちり立てていただきたい。

道路規格については、都市圏には都市圏の規格、地方には地方の規格があってしかるべきと考える。本町に片側２車線、歩道が３．５ｍの道路が必要なのではなく、港町であり観光地でもある本町は、大型トレーラーや大型観光バスが常に往来しているので、大型車が余裕を持ってすれ違える片側１車線、歩道２ｍがあれば十分と考える。それぞれの街の産業形態に合った道路づくりが必要である。

道路をつくるときに、費用対効果という言葉をよく耳にしますが、地方にそれを当てはめると、効果が薄いという結果になり、どうしても整備が先送りになる傾向がある。これは、一極集中化の弊害であり、地方に暮らす人はその土地を捨てろということなのかと不安を感じざるをえない。

宮城県には、自動車産業が誘致されて、新たに道路整備等が行なわれているが、企業が進出したから整備をするのではなく、国策としての多極分散型の企業誘導が必要で、それに伴う道路整備も事前につくっておくことが必要である。

本町としては、石巻北部バイパスの早期完成、三陸縦貫自動車道の早期完成が最重要課題として、一日も早い完成が待たれているが、国において道路の中期計画が１０年から５年に見直された現状に鑑み、今後は早いテンポでの道路づくり見直しを期待したい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式　②

②－１　地域の現状と抱える課題

宮城県　女川町

◎女川町の概要

女川町は、宮城県の東端、牡鹿半島の基部に位置し、周囲を県内第２の都市「石巻市」及び太平洋に囲まれ、２つの有人離島を持ち、そして原子力発電所が立地する人口約１万人の漁業や水産加工業を主産業とした港町です。

○現況	○課題
１　国　道 本町から石巻市へ通じる国道は３９８号が唯一となっています。本線は、これまで一部の道路改良や災害防除が実施され現在に至っているが、道路の高規格化については、目だった進展はなく、依然として主要箇所に迂回手段のない単線路線となっている。特に、これまでがけ崩れや大雨による冠水等の災害から幾度か道路が寸断され、町民及び町の経済は一時的に「陸の孤島」と化したこともしばしばあった。このような状況から県においては、平成２０年度から一部の区間を改良整備すべく事業着手し、平成３０年度の完成を目指している。 また、市街地における本線は、列状に密集した住居に囲まれ、土地利用に大きく制約を受けているため幅員が狭く、歩行者が安心して通行できる歩道の整備は不十分な状況にある。リアスブルーラインと呼称される区間については、急峻かつ地質的に脆弱な山間部を地形なりに終始蛇行して整備されており、幅員も狭くたびたび道路を形成する法面の崩壊がみられる。	１　国　道 原子力発電所を抱える本町では、住民の防災に対する関心度が高く、人員や物資の安全かつ迅速な輸送手段の確保のためにも、最も重要な路線である浦宿から石巻側の国道を早期に整備、改良すべきとする町民の要望が強く寄せられており、要改良区間の重点的な整備が急務とされている。 本町から三陸縦貫自動車道までのアクセス道路は、多極分散型国土形成に重要な役割を果たし、広域との連携と活力ある町づくりを推進するうえで極めて重要であることから、当該道路建設の早期実現は喫緊の課題となっている。

２　県　道 本町には、５つの県道路線があるが、うち１つは認定のみで実際の路線はない。 ４つの路線のうち、女川停車場線（延長４４ｍ）を除く３路線については、いずれも南三陸特有のリアス式海岸の山間部を地形なりに切り開いて設置された路線であり、カーブと起伏が激しく、幅員も狭いものとなっている。 特に、市街地と女川原子力発電所が立地する五部浦地区を結んだ「主要地方道女川牡鹿線」については、直線がほとんどなく、カーブカーブの連続で、運転手自体が車酔いするほどの路線のため、県において部分改良を進めているところだが、進捗状況が鈍いため、一部の区間において町の単独事業でトンネルを造り、町道として管理している。 また、「一般県道牡鹿半島公園線」については、もろい岩質の切り通しが多く見られ、降雨による土砂崩れの発生頻度が高いため、一定以上（時間２０mm、総雨量８０mm）の降雨量に達すると全面通行止めになるなど、通行がたびたび規制されている。 「一般県道出島線」については、離島「出島」の出島地区と寺間地区を結ぶ唯一の路線で、幅員が狭すぎるために車両の対面通行が難しかったため、県において新たに道路を建設している状況にある。前述した未整備路線については、本土から出島への架橋であり、島民は一日も早い事業着手を心から望んでいる。	２　県　道 主要地方道女川牡鹿線は、沿線住民が従前から産業生活上最も重要としてきた道路ですが、極端にカーブが多く、激しい起伏とともに幅員が狭いなど、交通事故の多発とその影響が憂慮されている。さらに女川原子力発電所が立地することから、いざというときの避難道路として住民の生命を守らなければならないため、早急な整備完了が必要とされる。 一般県道出島線については、県において鋭意整備に努めているところであるが、この路線については、本土からの架橋の前段事業として進められているものであり、離島住民は出島線の完成前に本土側からの道路整備に着手してもらいたいと考えているが、県の財政事情から現在の中期整備計画には盛り込まれていない。出島は、女川原子力発電所の向かい側に位置するため、いざというときの避難のためにも架橋の早期実現が必要である。

３　町　道 平成１９年度末の町道は、４９５路線、実延長が約９４ｋｍで、そのほとんどが旧来からの道路を一部拡幅あるいは舗装しているため、道幅が狭く、変形、急勾配、カーブが多いなど、問題を抱えている。 近年は、有事の際の緊急車両通行用として、現道拡幅が難しいことから、集落内にバイパス的な道路を整備している。	３　町　道 近年の異常気象による災害、また近いうちに発生が予想されている宮城県沖地震など、町民の防災意識が一層高まるなか、町道の整備についても災害時における運搬路の確保や緊急車両の防災活動が円滑に実施できるように配慮する必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

様式　③

②－２　地域の目指すべき将来像

宮城県　女川町

女川町は、太平洋に面し、世界三大漁場のひとつ三陸沖を目の前に控え、港に水揚げされる多種多様の水産物に支えられ、水産・漁業の町として発展してきました。

また、恐山、出羽三山と並び称される奥州三霊場「金華山」の玄関口として、たくさんの参拝客が訪れる観光の町でもあります。しかし、多くの観光客は通過型であり、滞留型の観光へ転換を目指し、平成６年に水産観光センターと水産物流通センターを併設オープンさせました。それに加え、コンパクトではありますが、第３種公認の陸上競技場、大体育館、野球場、多目的運動場、テニスコートなどを備える総合運動場があり、大型バス等での来町利用者が毎年２０万人をはるかに超え、観光全体では毎年７０万人を超える流入客があります。

本町は、平成の大合併の際、周辺市町との合併をせず自立する道を選択しました。女川町が今後も引き続き一町単独で自立するためには、基幹となる道路整備が不可欠となります。年々、大型化する水産物輸送用トラック、観光客を乗せた大型バスなど、国道３９８号を対面通行する際、ぶつかるのではという不安がいつも頭をかすめます。３９８号の整備が遅れれば、市場に水揚げされた魚類の運送に影響を与え、「女川に揚げたら輸送できない」との評判が立てば、当然ながら漁船としても水揚げを敬遠するようになるし、大型観光バスも「幅員が狭くて危険だから、別の観光ルートを開発しよう」などとなれば、女川町の未来は風前の灯になってしまうおそれがあります。

将来とも、女川町は水産・漁業の町、そして観光の町として生き抜かなければならない。そのためには、どうしても国道の整備が重要になってきます。「浦宿バイパス」については、平成２０年度から事業着手されておりますが、一部の区間であり、石巻へ通じる「北部バイパス」の早期完成こそが女川町を唯一生かす術だと強く感じておりますので、国においては、交通量のみならず、その道がなければ生活自体が成り立たないという事実を受け止めていただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式　④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

宮城県　女川町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・女川町と石巻市の境から国道４５号へ通じるアクセス道路（通称：国道３９８号石巻北部バイパス）	・既存の国道３９８号は、大型車両の対面通行に危険を伴う幅員となっており、水産物輸送や観光客の流入など、年々大型化する車両を安全に通行させるため一日も早い完成が待たれる。	
・大規模な地震、火災等に強い国土づくり等	・主要地方道女川牡鹿線の改良整備	・大規模な宮城県沖地震が発生する確率が高くなっている昨今、女川原子力発電所が立地する沿線住民の避難道としての役割、生活産業道路としての役割が期待される。	
	・出島架橋の早期着工	・離島「出島」は、本土から約２００ｍほどしか離れておらず、台風や低気圧の際は、停電、離島航路の欠航など、本土に暮らすものには分からない苦労を幾度も経験している。原子力発電所に近いこともあり、宮城県沖地震、それに伴う津波などの影響を受けやすく、架橋の早期着工が待たれている。	